

総合的な
学習の時間

第4学年

江田島市立中町小学校

指導者 濱本純子

単元名

「人にやさしいまち江田島 ～どんな人でも住みやすいまちにするには?～」

本単元で育成する資質・能力 主体性

日時：令和3年9月29日（水）第5校時

研究主題 自ら学び、考え、表現する児童の育成
～授業におけるICTの効果的な活用を通して～

1 総合的な学習の時間の目標（中学年）

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の教育資源を生かした総合的な学習を行うことを通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力・人間性等
地域の教育資源を生かした探究型の学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、自分たちが住む地域の魅力を理解する。	地域社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ、目的に応じて表現する力を身に付ける。	地域の教育資源を生かした探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとする態度を養う。

2 能美中学校区（小中9年間）で育成したい資質・能力

	レベル1	レベル2	レベル3
やりきる力	好き嫌いせずに、決められたことをやりきる。	決められたこと以外でも、あきらめずにやりきる。	自分で決めた目標に向かって、粘り強く取り組む。
伝え合う力	【話すこと】 相手を見て話す。	【話すこと】 終わりまではっきりと話す。	【話すこと】 伝えたいことが分かるように、意見をまとめて話す。
	【聞くこと】 相手を見てだまって聞く。	【聞くこと】 うなづくなど、反応しながら聞く。	【聞くこと】 相手の言いたいことを考えながら聞く。
主体性	自分の「できたこと」「できなかったこと」が分かる。	「次にどうしたらよいか」を考えながら振り返る。	「新たな課題」を見付け、その解決に向けた見通しをもつ。

3 指導の方向性について

○単元観

本単元は、自分達の生活する地域が抱える課題から誰もが住みよい地域にするために、今から自分たちにできることを探っていこうとする単元である。江田島市には、65歳以上の人口が約44%で、約2人に1人は高齢者である。地域住民の高齢化と核家族化により、「話す相手がいない。」「買い物やゴミ捨てが大変だ。」「掃除が難しい。」といった悩みを抱えながら孤独に暮らす地域の人が増加しているという課題がある。本単元は、児童がこうした課題を捉え、地域の人々の孤独の解消に向けて、地域の誰もが集い交流できる「やさしい町づくり」を活性化していくことを通して、社会の課題解決に向けて主体的に取り組もうとする態度を育てようとするものである。

○児童観（第4学年 17名）

【児童の実態】

本学年の児童は、3年生までの学習で、地域の「人、もの、こと」について調べ、江田島市の魅力「えたじまん」について調べている。また、4年生では、「人にやさしい町」として、町づくり協議会や社会福祉協議会と連携し、インタビューをしたり、高齢者疑似体験をしたりした。その後、地域包括支援センターの「認知症サポーター講習会」を受講した。さらに、地域の高齢者とつながり、困っていることを解決して、助けたいという気持ちも高まっている。

学習に関するアンケートでは、次のような結果となった。「地域のことが好き」100%、「地域の人とつながりを感じている。」82%であった。理由としては、「地域の人々が挨拶してくれる。しかし、挨拶だけで、話をしたことはあまりない。」という回答であった。また、「総合的な学習は好き。」は100%であった。体験をしたり、リーフレットを作成したりできるから、友達と考えることが楽しい等の理由であった。

【育成する資質・能力と関連する実態】

「主体性」…ほとんどの児童が、自分の学習状況を適切に振り返ることができるが、自ら考えて動くことができる児童は少ない。

「やりきる力」…どの児童も最後まであきらめずに課題に取り組む姿が見られる。慎重に動くことで、時間がかかる児童が数名いる。アンケート結果では、「分からないときでも何とかしようとして動いている。」に対する肯定的な回答は、70%である。

「伝え合う力」…日ごろの授業では、ペアやグループで意見を伝え合う活動を適宜設定している。自力解決が難しい児童は、友達の考えを聞いて、気付き、深めている。

○指導観

【本単元における指導の方向性】

○ 単元を貫く問いとして「江田島市をどんな人でも暮らしやすいまちにするためには、自分にはどんなことができるか。」を設定し、単元の初めには、江田島市の福祉や高齢者の気持ちが分かる地域の人を探し、話を聞いたり、インタビューしたりする。その後、体験的な活動を通して、江田島の福祉について考える学習活動を設定する。単元終末に「江田島市の福祉」についてまとめたことを、江田島市に住んでいる人に広め、高齢者に自分たちが考えたことをしていく。

○ 指導にあたっては、次の3点を手立てとして指導を進めていく。

① 「中町小☆きらきらプロジェクト！まあるくつなぎ隊」としての活動

- ・ 地域の高齢者の願いを知り、地域の人へのインタビューや体験の仕方を考えさせ、自信をもって地域の人たちに働きかけることができるようにしていく。
- ・ 国語科で学習したインタビューやメモの仕方の工夫、新聞づくり等を生かす。

② 「地域のサロン」等とつながり、高齢者を元気にしたいという目的意識

- ・ 地域の人と一緒に課題が解決できるようにし、地域の人々の願いに共感し、自分たちができるような場の設定をする。

③ 話し合いの場面では、クロームブックを活用することで、自分の考えや動きを表現し、整理できるようにする。

4 本単元に関する「本質的な問い」について

【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
 どんな人でも安心して暮らせる町とは？



【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

江田島市を、どんな人でも（もっと）暮らしやすいまちにするためには、自分にはどんなことができるか？



【個別の問い】（授業内で身に付ける知識・技能等）

- 「人にやさしい町」とは、どんな町だろうか。
- 「福祉」とは何だろう。くわしい人に話を聞きたい。
- 高齢者は、普段どんな気持ちになるのか？普段の生活で困っていることはなにか？高齢者にどんな支援が必要か？

5 単元の目標

「中町小さきらきらプロジェクト！まあるくつなぎ隊」として、高齢者にとっての課題解消に向けた「地域のサロン」とつながるために、インタビューや体験活動を通して、地域の課題解消や活性化に向けた取組や思いに気付き、地域の課題の解決に向けて主体的に取り組もうとする態度と実践力を育てる。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力, 判断力, 表現力等	(3) 学びに向かう力・人間性等
①まちづくり協議会とつながり、「人にやさしい町」について理解することができる。 ②社会福祉協議会とつながり、「福祉」とは何かを理解することができる。 ③地域包括支援センターの「認知症サポーター講座」を受講し、認知症について理解することができる。 ④日常的に気持ちのよい挨拶をしたり、高齢者が困っていることに気付いたりし、高齢者と適切な関わり方の知識と技能をもつことができる。 ⑤地域の人への接し方など自分の行動の変容は、地域の人とその暮らしについて探究的に学んだことによる成果であると気付くことができる。	①地域の人とその暮らしについて、課題を設定し、解決に向けて自分にできることを具体的に考えることができる。 ②持続可能な「人にやさしい町づくり」のために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えることができる。 ③伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現することができる。	①体験を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組むことができる。 ②課題解決の過程を振り返り、自分たちの体験をいかし、「地域のサロン」等とつながり、高齢者の課題解消に向けて取り組もうとすることができる。

6 単元の評価規準

(1) 知識、技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
①まちづくり協議会とつながり、「人にやさしい町」について理解している。 ②社会福祉協議会とつながり、「福祉」とは何かを理解している。 ③地域包括支援センターの「認知症サポーター講座」を受講し、認知症について理解をしている。 ④日常的に気持ちのよい挨拶をしたり、高齢者が困っていることに気付いたりし、高齢者と適切な関わり方の知識と技能をもっている。 ⑤地域の人への接し方など自分の行動の変容は、地域の人とその暮らしについて探究的に学んだことによる成果であると気付いている。	①地域の人とその暮らしについて、課題を設定し、解決に向けて自分にできることを具体的に考えている。 ②持続可能な「人にやさしいまちづくり」のために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ③伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①体験を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ②課題解決の過程を振り返り、自分たちの体験をいかし、「地域のサロン」とつながり、高齢者の課題解消に向けて取り組もうとしている。

7 単元のルーブリック

評価の観点	A 評価	B 評価	C 評価
知識・技能	既習事項を生かして、高齢者にとっての課題解決に向けた具体的な例や自分の体験談を踏まえながらインタビューやメモをしている。	既習事項を生かして、高齢者にとっての課題解決に向けた言葉を使って、インタビューやメモをしている。	既習事項を生かすことができず、インタビューやメモができていない。
思考・判断・表現	単元の問いに対して、高齢者にとっての課題解決に向けた知識や体験活動での学びを踏まえて、自己の考えや意見を、試行錯誤しながらよりよい方法を吟味した上で、適切に表現している。	単元の問いに対して、高齢者にとっての課題解決に向けた知識や体験活動での学びを踏まえて、自己の考えや意見を、適切な方法で表現している。	単元の問いに対して、自己の考えや意見を表現していない。
主体的に学習に取り組む態度	自分の生活の様子や意識のもち方を客観的に捉え、改善点やよりよい行動に向けた策を考えようとしている。	自分の生活の様子や意識のもち方を客観的に捉えようとしている。	自分の生活と意識のもち方を客観的に捉えようとしていない。

8 単元の計画（全 27 時間）

次	学習活動	知	思	主	評価方法
第一次 ⑪	学習の見通し① ○ 「福祉」という言葉について知り、くわしい人に現状を聞く計画を立てる。 ○ 「どんな人でも（もっと）暮らしやすいまちにするためには、自分にどんなことができるか」という単元を通した問いを提示し、単元終末時の学習課題について考える。			○	行動・発言 ワークシート ルーブリック

	「福祉」とは？ 体験活動 1⑩	<ul style="list-style-type: none"> ○「人にやさしい町」とは、どんな町だろう。(1) ○地域の人(町づくり協議会)とつながり、情報を収集しよう。(1) ○地域の人(社会福祉協議会)とつながり、「福祉」について知ろう。(1) ○車いす・高齢者疑似体験をして、高齢者がどのようなことで困っているか考えよう。(3) ○地域の人(地域包括支援センター)とつながり、「認知症サポーター養成講座」を受講しよう。(1) ○分かったことを町内の小学生や中学生に広めるために「福祉リーフレット」を作るとともに、学習を振り返る。(3) 	○		<ul style="list-style-type: none"> ○ 	<p>行動・発言 ワークシート ルーブリック</p>
第二次 ⑨	自分たちに行きけること 体験活動 2⑨	<ul style="list-style-type: none"> ○心も体も元気になる「きらきらプロジェクト第2弾 いきいきダンス体操～オリンピックバージョン～」という単元を通した課題を設定する。(1) ○「地域のサロン」に来ている高齢者とリモートでつながるための計画を立てる。(1) ○「いきいき百歳体操」について知り、高齢者と一緒に心も体も元気になるダンスや体操を考える。(本時2/2) ○みのり学習発表会で、「人にやさしい町」について調べたことをもとに発表するための準備をする。(5) 			○	<p>行動・発言 ワークシート ルーブリック</p>
第三次 ⑦	高齢者とのつながり⑥	<ul style="list-style-type: none"> ○「サロン」に来ている高齢者とリモートでつながるための計画を立てる。(1) ○「きらきらプロジェクト」を実行する。(4) ○これまでの活動を通しての自分の変容を振り返り、持続可能な「サロン」とのつながりや自分たちに行きけることを考える。(1) 			○	<p>行動・発言 ワークシート ルーブリック</p>
	まとめ①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他のグループの発表や発表を聞いた方の感想を踏まえて、改めて「どんな人でも(もっと)暮らしやすいまちにするためには、自分にどんなことができるか」についての自分の考えをまとめ、学習の振り返りをする。 			○	<p>行動・発言 成果物 ワークシート ルーブリック</p>

9 本時の学習（15／27 時間）

(1) 本時の目標

「地域のサロン」などで高齢者とつながるために、自分たちも高齢者も一緒になって、心も体も元気になるいきいきダンス体操の組み合わせを考える。

(2) 学習の展開

	学習活動	主な発問 (発) 指導上の留意点 (◇) ・予想される児童の反応 (◆「努力を要する」状況と判断される 児童生徒への手だて)	・評価規準 (評価方法) 【ルーブリック】
つ な が り	1 前時の学習を振り返る。 (5分)	◇コロナ禍で、家にこもることが多くなった今日、心も体も元気になるダンスや体操について単元を貫く課題について想起する。 ◇いきいき体操を組み合わせる時の視点について確認する。	
見 通 す	2 本時のめあてをつかみ、 本時の学習活動の見通し をもつ。(2分)		
㊦ きらきらプロジェクト第2弾！音楽に合わせていきいきダンス体操の組み合わせを考えよう。			
考 え る	3 自力解決する。(8分) ○いきいきダンス体操の組み 合わせを考える。 4 グループで交流する。 (15分) ○自分の考えた組み合わせと 友達の考えを比較し、より よいものにする。	発 高齢者の特性を考えて、いきいき体操の組 み合わせを考えよう。 ・足はあがりにくいな。筋肉をつけよう。 ・手はまっすぐ、腰はできるだけ伸ばそう。 ◇ジャムボードを使い、いきいきダンス体操の 写真を並びかえ、理由を付箋で貼るようにす る。 ◇高齢者が無理のないようにし、効果的な動き になるようにさせる。 ◆理由が考えにくい場合は、声をかけて理由を 聞く。 発 グループでよりよい組み合わせと理由を考 えよう。 ◇カメラ機能を使って動画をとることで、理由 となる動きができるか確認させる。	
深 め る	5 全体で交流する。 (10分) ○グループで話し合った組み 合わせの理由についてのキ ーワードを発表する。 ○グループの発表を受けて、 自分たちが考えたことを再 考していく。	発 音楽に合わせていきいきダンス体操をやっ てみて、気付いたことを出し合おう。 ・手と足の両方の動きがあったほうがいいね。 ・深呼吸は入れた方がいいね。 ・足の筋肉がつくと歩きやすくなるかな。 発 他のグループの発表を聞いて、見直したい と思ったことはないかな。 ・入れた方がいい体操があるよ。 ・どの動きを入れたらよいか専門家に聞いてみ	いきいきダンス体 操の組み合わせを 理由をつけて考え

		たいな。 ◇高齢者と「地域のサロン」でつながり、心も体も元気になるという目的意識を再度もたせる。	ることができている。(発表, ワークシート) 【思考・判断・表現】
	【児童のまとめ例】 みんなが楽しく元気になるダンスや体操を考えたので、「サロン」とリモートでつながりたい。		
振り返る	6 振り返る。(5分) ○めあてに対しての本時の自分の学習の成果を振り返る。		

(3) 本時のルーブリック

	思考・判断・表現
A	高齢者の身体的な特性を考えながら、いきいきダンス体操の組み合わせを考え、その効果や方法を示しながら、考えた理由を説明できる。
B	高齢者の身体的な特性を考えながら、いきいきダンス体操の組み合わせを考え、考えた理由を説明できる。
C	高齢者の身体的な特性を考えながら、いきいきダンス体操の組み合わせを考えることができる。

10 板書計画

④ きらきらプロジェクト第2弾！音楽に合わせていきいきダンス体操の組み合わせを考えよう。

まあるくつなぎ隊

準備体操 → 筋力運動 → 整理体操

おじいちゃんおばあちゃんに会いたい！

→地域のサロン リモート

心も体も元気になるダンスや体操

--	--	--

⑤ みんなが楽しく元気になるダンスや体操を考えた。おじいちゃんやおばあちゃんとリモートでつながりたい。

--	--	--